

【質問】ラスビック点滴静注の注意すべき重大な副作用は？

【回答】

ラスビック点滴静注キット 150mg の添付文書では、重大な副作用として、以下のとおり記載されています。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 ショック、アナフィラキシー（いずれも頻度不明）

呼吸困難、血圧低下、浮腫、発赤等の症状が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

11.1.2 白血球減少症（頻度不明）

11.1.3 間質性肺炎（0.3%）

発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増多等を伴う間質性肺炎があらわれることがあるので、このような症状が認められた場合には投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

11.1.4 QT 延長、心室頻拍（Torsades de pointes を含む）（いずれも頻度不明）

11.1.5 低血糖（頻度不明）

11.1.6 偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎（頻度不明）

腹痛、頻回の下痢等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

11.1.7 アキレス腱炎、腱断裂等の腱障害（頻度不明）

腱周辺の痛み、浮腫、発赤等の症状が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

11.1.8 肝機能障害（頻度不明）

肝機能障害（AST 上昇、ALT 上昇等）があらわれるおそれがある。

11.1.9 横紋筋融解症（頻度不明）

筋肉痛、脱力感、CK 上昇、血中及び尿中ミオグロビン上昇等を特徴とし、急激な腎機能悪化を伴う横紋筋融解症があらわれるおそれがある。

11.1.10 痙攣（頻度不明）

11.1.11 錯乱、せん妄等の精神症状（頻度不明）

11.1.12 重症筋無力症の悪化（頻度不明）

11.1.13 大動脈瘤、大動脈解離（いずれも頻度不明）

出典：添付文書